

幸松こうまつ ちめいの地名（下）

前号で述べた七カ村の村名は、幸松村の誕生によつて、大字名として現在残っている。江戸時代に使用された地名については、それぞれの文献を参考として、つぎに解説する。

〔小淵〕『新編武蔵風土記稿』<sup>※1</sup>に村内百餘尊権現の縁起に據よれば、当時今の古利根川殊に大河にして当所は水底深き大淵なりしゆへ、巨淵と號せしより地名にをはせしを後に文字を假借かしゃくして小淵と書改といへり。この説は当を得たものと地名誌にも記されている。

〔不動院野〕『新編武蔵風土記稿』<sup>※2</sup>に元和二年（一六一六年）の開発なり、古へは隣村小淵村不動院の寺領などにて、村名もかく呼へるならんと土人の伝なり、又空間の原野にて属する處ところもなく、不動院より人を出し草など刈取りしかば今の如く云習はし遂に村名となりしならんとも伝へり、とある。

〔八丁目〕『新編武蔵風土記稿』に昔村民前といへるもの開発し後又元和年中若狭と云うもの次で開きしというところがあるが、埼玉県地名誌では八丁目とは八丁免の意で莊園時代の新浦地頭の人給田である。されば八丁目はすでに莊園時代にその名を得た地で筑前・若狭の開発は再開であろうと解している。筆者も高台地域については同感である。筑前・若狭の開発したのは新田・浦・樋籠の小字区域と解す。

〔樋籠〕 「埼玉県地名誌」によると、樋籠は正保（一六四四年）の改めには樋籠新田と云われ、元禄（一七〇〇年）の改めにて樋籠村となった。ヒロウとはヒゴメ（樋籠・樋込）が本来の呼び方であったとみる。樋とは用水の樋と解され、さらにコメには集まるの意がある。さればヒゴメとは用水の樋が集まっているところの村と解する。

〔牛島〕 「埼玉県地名誌」には、ウシジマはウチ（内）ジマの意とみられ、シマには(1)川添いの耕地(2)村の意がある。おそらく川荒れによりおこった地名とみるとある。

小野文雄先生（春日部市史監修者）著の「埼玉県の歴史」の中で國府への道（古道）は、武蔵國は東山道に属しており東山道から國府までの五駅の一つである浮島の駅うみやの地で後に牛島と変化したのではないかとの説がある。

〔樋堀〕 「埼玉県地名誌」には、樋とは用水路の樋をさし、堀とは用水路の意であると解説されている。この説を尊重して考えるに、この地域にある用水堀・樋は古利根川に流入する最も近い所にあるのでこの地名となったと解する。

〔新川〕 『武蔵國郡村誌』に、新川は按ずるに正保改定図には新川新田と載せ元禄改定図には新川村と載す土人の伝えに古下総國下河辺郷に属し宝暦九年に武蔵國に属せしと云とあり。一説には庄内古川は、渡良瀬川の下流にて太日川と呼ばれたとも伝えられている。河川の流路の変化による下総國の上流の水害を防除するため、村の中央部を堀割って流水の便を図ったので武蔵國側の利根川を古川と称したのに対し、新川とした由縁でその地名が付されたと解する。

※1 原本は「『新編武蔵風土記稿に』」となっていたのを「『新編武蔵風土記稿』」に修正した。

※2 原本は「『新編武蔵風土記稿』」となっていたのを「『新編武蔵風土記稿』」に修正した。